



NY商品、原油が反落 ロシア軍撤収なら「WTIは20ドル下落も」金も下落

【NQXニューヨーク=張間正義】15日のニューヨーク・マーカンタイル取引所（NYMEX）で原油先物相場は5営業日ぶりに反落した。WTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）で期近の3月物は前日比3.39ドル（3.6%）安の1バレル92.07ドルで取引を終えた。ウクライナ侵攻の構えを見せていたロシアが軍隊の一部を撤収させると発表した。同国からの原油や天然ガスの供給が途絶え、需給が逼迫するとの懸念が後退した。

ロシア国防省は15日、ウクライナ周辺での軍事演習を終え、同日から一部で撤収を開始すると発表した。ロシアのプーチン大統領は欧州の安保について「協議を続けていく用意がある」と述べ、今後も撤収を続けるかは「状況次第」と説明した。ロシア軍が撤収を続ければ「WTIは最大20ドル程度下落する可能性がある」（プライス・フューチャーズ・グループのフィル・フリント氏）との声があった。

ニューヨーク金先物相場は8営業日ぶりに反落した。ニューヨーク商品取引所（COMEX）で取引の中心である4月物は前日比13.2ドル（0.7%）安の1トロイオンス1856.2ドルで取引を終えた。前日までウクライナ情勢の緊迫化を警戒し、相対的な安全資産とされる金は買いが続いていた。この日は地政学リスクが和らぎ、利益確定売りが出た。



価格の影響「圧倒的」、ロシアの石油・ガス輸出停止なら

[15日 ロイター] - IHSマークイットのシニアバイスプレジデント、カルロス・パスクアル氏は15日、ウクライナを巡るロシアへの制裁でロシアからの石油・ガスの輸出が停止された場合、世界の消費者に対する価格の影響が圧倒的なものになると述べた。

ロシアは世界最大の石油・ガス生産国の一つ。ロシアによるウクライナ侵攻への懸念により、原油価格がここ数週間で上昇していたが、15日にはロシアがウクライナ近郊から一部部隊を撤退させたことを受け、原油価格が急落した。



ウクライナ情勢、原油価格や日本企業への影響注視＝萩生田経産相

〔東京 15日 ロイター〕 - 萩生田光一経済産業相は15日の閣議後会見で、ウクライナ情勢緊迫化による日本への影響について「足元で上昇傾向にある原油市場の動向や日本企業への影響を含め、重大な懸念を持って注視しており、高い警戒感を有している」と述べた。

原油価格上昇への対応策については「現時点でトリガー条項の凍結解除は考えていない」と、従来の考え方を繰り返した。そのうえで「何が効果的な対策か、国民生活や経済活動への影響を最小化するという観点から、政府全体でしっかりと検討したい」とした。

週間コスト

1円50銭程度上昇

原油一段高 ウクライナ緊迫化

原油相場の上昇基調が続くなか、本紙算定の円建て週間原油コスト（ドバイ・オマーン平均）は、8〜14日が前週から1円80銭、9〜15日が1円60銭ほど引き上がった。上げ幅は前週と合わせて3円程度に達する。燃料油価格激変緩和措置の補助金額はすでに上限の5円に到達しており、前週比で増加が見込まれないことから、当週の仕切価格は4週ぶりに「元売自社算定」通りの改定幅となりそうだ。別表参照。

原油相場はウクライナ情勢の緊迫化を受けて、算定期間後半にかけて一段高となった。日本や米国など各国がウクライナにいる自国民や大使館職員に退避を求めたと伝わった。G7（主要7カ国）の

財務相は14日、ロシアがウクライナに軍事侵攻すれば「ロシア経済に甚大かつ即時の結果をもたらす経済・金融制裁を共同して科す用意がある」との声明を発表した。

ウクライナ情勢について、東京大学先端科学技術研究センターの小泉悠専任講師は14日に開催した日本エネルギー経済研究所のウェビナーで、先週頃からロシア軍部隊が基地を

ロシア軍部隊が基地をめぐりに展開し始めたことをあげ、状況が一段と変化してきたと指摘。部隊が野外展開できる期間は長くないとして、ロシアのプーチン大統領は今月中になんらかの決断を下すのではないかとの見方を示した。

指標原油（期近、終値）は8〜14日にかけて、米国産WTIが89ドル36セントから95ドル46セント、北海ブレントが90ドル78セントから96ドル48セントに上昇。期間平均の上げ幅はWTIが前回算定時から1ドル42セント（1・

6%）、北海ブレントが1ドル79セント（2・0%）だった。中東産ドバイ・オマーン平均は8〜14日が2ドル、9〜15日が1ドル80セントほど値を上げ、2

米債券市場で10日、長期金利の指標となる10年物国債利回りが終値で2%台に上昇。一方で日本銀行は新発10年物国債を0・25%の利回りで無制限に買い

014年10月以来、およそ7年4カ月ぶりに90ドル台に乗せている。円相場は3週続けて下落した。大手銀行TSLレート平均は、8〜14日が1ドル116円48銭、9〜15日が116円51銭で、いずれも前週比56銭の円安ドル高。5週ぶりに116円台に軟化した。



シカゴ穀物概況・15日

【シカゴ支局】15日のシカゴ市場で主要穀物は小麦主導で下げた。ウクライナ情勢を巡る緊迫感が薄れ、売られた。ロシア国防省は15日にウクライナ国境近くから軍隊の一部撤収を始めたと発表した。このため、両国からの出荷停滞により世界の穀物輸出に混乱が生じるとの懸念が後退した。小麦3月物終値は前日比19.50セント安の1ブッシェル=7.7975ドル。

トウモロコシは原油相場の下げも弱材料になった。3月物終値は同17.75セント安の6.38ドル。

大豆も安い。小麦とトウモロコシにつれ安した。南米の天気予報を手掛かりに減産への警戒感が薄れたことも弱材料だった。3月物終値は同18.75セント安の15.5125ドル。